

まちづくりにおける SDGsへの理解を進めるには



質問者
平野 由里子 議員

国連で17の持続可能な開発目標、SDGsが提唱されて5年目となりました。最初は高尚なレベルの遠い話と思われていたかもしれませんが、今や松田町でも第6次総合計画に各目標が紐づけられるまでになりました。

(1) 町民や職員に理解は浸透しているのでしょうか。どのような啓発を行っているかお答えください。

(2) SDGsは2030年までの長期的指針ですが、子ども達に向けてどのように取り組んでいますか。

(3) SDGsの3「すべての人に健康と福祉を」にもつながる住民検診について、松田町ではマン

モグラフィによる乳がん検診を40歳以上の女性に隔年で実施していますが、30代女性にエコーによる検診を実施するお考えはありませんか。

SDGsの啓発を推進します



回答 (町長)

(1) 2市8町広域の研修会や、内閣府SDGs官民連携フォーラムに職員を派遣しているが、まだ政策推進課が中心で職員全体の啓発は足りていない。町民向けには人権講

演会を毎年開催している。またクールチョイス事業を実施しており、元年度は7回連続アンバサダー講座や、一番古い冷蔵庫大会を開催したり、敬老会でエコバッグを配布した。

(2) 子ども達は人権・環境意識を高める研修や道徳の授業に取り組んでいる。元年度はエコアイデアコンテストも実施した。

(3) 30代女性のエコーによる乳がん検診は、足柄上1市5町では大井町と松田町以外は実施している。費用面や実施方法など研究し実施に向けて検討する。

アンバサダー講座
クールチョイスの取組を地域に浸透させるための人材育成を目的とした講座。全7回開催。認定アンバサダー1名(地域での普及啓発を行う予定)。

立地適正化計画と 駅周辺整備について



質問者
齋藤 永 議員

2月1日付けのタウンニュースで「松田町では二つの鉄道駅中心としたまちづくりを推進し、都市計画マスタープランで周辺地域との公共交通ネットワークを強化する方

針を示した」という報道がなされた。町では平成31年3月に駅周辺整備構想・基本計画を発表し、ここで立地適正化計画制度の適用に取り組んでいる。

そこで、次の3点をお聞きします。

(1) 立地適正化計画制度を適用することによる効果は何か、またどのようなまちづくりとなるのか。

(2) 駅周辺整備構想・基本計画との関連性と影響について。

(3) 都市計画マスタープランを含めた駅周辺整備の現在の状況と今後の予定は。

その活用が促進され、持続可能で強靱なまちづくりを行い利便性の高いまちを目指す。

(2) すべての計画は将来のまちづくりを見据えた計画となっており、都市計画マスタープランの高度化版として大変重要な計画である。

(3) 再開発事業が想定される駅周辺の地権者の方々にお集まりいただき「まちづくり懇談会」を開催している。又参加できない方や町民には会議録「まちづくり通信」を作成しホームページなどで情報を発信して行く。

「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」を推奨していく



回答 (町長)

(1) 二つの鉄道駅周辺を中心拠点として生活利便性の向上となる都市機能を誘導するとともに、交通結節点として周辺地域との公共交通ネットワークを強化する事で、土地



現在の駅前